

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22402029

研究課題名(和文) グローバルハイブリッド経営に向けた環境適合型リーダーシップ学習モデルの構築

研究課題名(英文) Learning Mechanism for Contingency-based Global Leadership Competency Development in Global Hybrid Management

研究代表者

Benton Caroline (Benton, Caroline)

筑波大学・副学長

研究者番号：50520897

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,000,000円、(間接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、世界12か国のマネジャーを対象とした定性・定量調査を実施し、グローバルマネジャーが、クリティカルインシデントに直面した際、新しいグローバルリーダーシップ・コンピテンシーを学習していくプロセスを分析することである。

研究成果としては、海外、国内の学会、学会誌において発表するとともに、応用研究としてシミュレーション・ツール開発に成功した。具体的には、探索的因子分析とコンテンツ分析を組み合わせた決定木を特定し、特定のクリティカルインシデントケースにおけるグローバルリーダーシップ・コンピテンシーの選択が、クリティカルインシデントの解決度に与える程度を測定するシミュレーションモデルである。

研究成果の概要(英文)：This research investigates the process by which managers acquire global leadership competencies while facing critical incidents during the course of conducting international business. Qualitative and quantitative research of global business managers in twelve countries was conducted. Findings were presented at academic conferences in Japan and abroad, and were used to develop a simulation tool that allows users to evaluate their readiness to resolve critical incidents in international business settings. Explorative factor analysis and context analysis were used to develop a decision tree that measures how usage of specific global leadership competencies affects the resolution of specific cases of critical incidents in different countries.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学

キーワード：多国籍企業 グローバルリーダーシップ・コンピテンシー メタ認知学習 ミックスドリサーチメソッド グランデッドセオリー・アプローチ

1. 研究開始当初の背景

日本企業を含め、多国籍企業では、そのネットワークの拡大に伴い、より迅速かつ的確に環境変化へ対応する必要が高まっている。そのため、グローバルビジネスの最前線で働くグローバルマネジャーには、自立的に課題を解決し、新たなビジネスモデルの枠組みを構築していく能力と速度が要求される。

こうした組織とマネジャー個人の双方に課せられた課題を同時に達成するためには、柔軟かつタイミングよく経営課題に対処できるように適切な資源配分や意思決定の権限を委譲するとともに、グローバルネットワークを円滑に運営することができる能力をもつマネジャーを育成することが急務といえる。

このグローバルネットワークを動かすマネジャーの役割を果たすのが、研究対象として取り上げる「グローバルリーダー」である。グローバルリーダーには、自身とメンバーの文化、言語、コミュニケーションスタイルの違いを超えて信頼関係を構築することが求められる。そして、多様性の高いメンバーから構成されるグローバルネットワークを動かし、経営成果を上げることが期待される。

一方、異文化環境の多様性から、グローバルビジネスには新規性が高く、グローバルリーダーは、経験値を持ち合わせていない数多くの経営課題と対峙して、解決に導かなくてはならない。そのためには、この未知との遭遇に際して、的確な状況判断にもとづく行動を発揮することが求められる。

2. 研究の目的

異文化において、その判断や対処行動が、行動結果に重大な影響を与える出来事のことを異文化教育では、「クリティカルインシデント(危機的事例)」と呼んでいる。異文化環境では、自国文化では経験したことのな

い出来事に遭遇する確率が高く、グローバルマネジャーにとって、その取扱い次第によっては、重大な経営問題に発展することもある。

しかしながら、こうしたクリティカルインシデントの解決に向けて、マネジャーの既存知識やコンピテンシーでは十分に対応できない状況が起こり得ることは容易に想定される。そのため、グローバルマネジャーが成功するためには、これまでにない新しい発想やネットワークを駆使し、これまでとは違ったやり方で、クリティカルインシデントを解決する自己学習能力をもつことが大切となる。

本研究の目的は、グローバルマネジャーが、クリティカルインシデントに直面した際、メタ認知を活用しながら、ダブルループ学習を通して、新しいグローバルリーダーシップ・コンピテンシーを獲得していくプロセスを分析することである。

この一連のプロセスをモデル化することにより、次世代のグローバルリーダー育成の仕組みづくりを設計することが成果物となる。

3. 研究の方法

平成 22 年度における先行研究、平成 23 年度のインタビューに基づいて、平成 24 年度、25 年度の 期に分けて、世界 12 か国(日本、中国、台湾、韓国、タイ、インドネシア、英国、フランス、ドイツ、ノルウェー、ロシア、トルコ)の海外ビジネスに携わるグローバルマネジャーを対象とした WEB 調査を実施した(回収数:907)。このデータにもとづき、コンテンツ分析と探索的因子分析を併用し、調査回答者の自由記入に基づく回答について、定量データと定性データを相互補完する Mixed Research Method を用いて分析した。

これにより、従来の独立した定量、定性の仕切りを取り除き、分析結果の妥当性を確認するとともに、総合的な結果解釈に役立てる

ことができた。

4. 研究成果

これまでの研究成果としては、基礎研究的には、海外、国内の学会、学会誌において発表するとともに、応用研究としてシミュレーション・ツール開発に成功した。具体的には、探索的因子分析とコンテンツ分析を組み合わせた決定木を特定し、特定のクリティカルインシデントケースにおけるグローバルリーダーシップ・コンピテンシーの選択が、クリティカルインシデントの解決度に与える程度を測定するシミュレーションモデルである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

永井裕久(2013)「パフォーマンスを生み出すグローバルリーダーの育成」経営行動科学第26巻第1号, pp.69-74、寄稿依頼

永井裕久(2012)「日本企業におけるグローバル人材育成システムの構築に向けて」日本労働研究雑誌 No.623, pp.17-28、寄稿依頼

〔学会発表〕(計7件)

永井裕久、椿広計、ベントン・キャロライン、木野泰伸(2012.11.18)グローバルリーダーシップにおけるダブルループ学習メカニズムの探索、経営行動科学学会第15回年次大会、神戸大学(兵庫県)

椿広計、木野泰伸(2012.11.1)グローバルリーダーの意思決定メカニズムとシミュレーション、第4回横幹連合総合シンポジウム、日本大学(千葉県)

ベントン・キャロライン、永井裕久(2012.11.1)グローバルリーダーシップのコンピテンシー選択：国際比較調査にもとづくモデル探索、第4回横幹連合総合シンポジウム、日本大学(千葉県)

筑波大学グローバル人材リサーチユニット(永井裕久、ベントン・キャロライン、椿広計、木野泰伸)(2012.7.13)グローバルリーダーシップ学習メカニズムの11か国比較、グローバル人材育成フォーラム、筑波大学(東京都)

University of Tsukuba, GHRD Study Group (Benton, Caroline F.; Nagai, Hirohisa; Tsubaki, Hiroe; Kino, Yasunobu), Petroskaya, Irina; Waldenberger, Franz (2012.5.6) Meta-Cognitive Approach for Global Leadership Competency Training & Development, American Society for Training & Development 2012 International Conference & Exposition, Denver, Colorado, USA

筑波大学グローバル人材開発リサーチユニット(永井裕久、椿広計、ベントン・キャロライン、木野泰伸)(2012.1.18)「グローバルリーダーの育成に向けて」統計数理研究所研究会、統計数理研究所(東京都)

Hirohisa, Nagai; Benton, Caroline F.; (2011.2.16) Meta-cognitive Approach to Global Leadership Competencies, Conference on Exploring Leadership & Learning Theories in Asia 2011, Penang, Malaysia

〔図書〕(計1件)

永井裕久「パフォーマンスを生み出す

グローバルリーダーの条件」白桃書房
(執筆中)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

Benton Caroline
(Benton, Caroline)
筑波大学・副学長
研究者番号：50520897

(2) 研究分担者

永井 裕久 (Nagai, Hirohisa)
筑波大学・ビジネスサイエンス系・教授
研究者番号：10266215

木野 泰伸 (Kino, Yasunobu)
筑波大学・ビジネスサイエンス系・准教授
研究者番号：00400630

(3) 連携研究者

椿 広計 (Tsubaki, Hiroe)
統計数理研究所・データ科学研究系・教授
研究者番号：30155436